

■富永仲基 儒学者、思想家。文化人類学要素をもった革命的思想「翁の文」「出定後語」を提示して、早世した。

とみながなかもと

国姓爺合戦・1715＝ 大阪尼ヶ崎町(東区今橋4丁目)に生まる。

徳川吉宗將軍1716＝ 1歳： 父芳春は北浜で醤油醸造や漬物商道明寺屋を営む富商で、

近松没・・・1724＝ 9歳： 父が五同志の一人として町人学問所懷徳堂を創建した際に招いた父の師三宅石庵に儒学を学ぶも、

・・・1730＝15歳： 近代の科学研究に先んじて中国古代思想を発展的にとらえ「説蔽」(今日に伝わらず)を著し、三宅石庵に破門され、懷徳堂を去る。直後に石庵は死去。

享保大飢饉・1732＝17歳： この頃、 田中桐江(荻生徂来の親友)の具江社の門に入る。

・・・1733＝18歳：

・・・1734＝19歳： この頃、 仏典をほぼ読破し、インド仏教史の大綱を考え構想をねるという。

・・・1738＝23歳： *「翁の文」(儒教・仏教・神道をまとめて論じたもの。宗教や倫理の形骸化を指弾し、現実に生きる“誠の道”を提唱)成る。

船出没始 1739＝24歳： 父芳春が死去。

公事方御定書1742＝27歳：

梅岩没・・・1744＝29歳： *仏教思想を成立史的に解明、始祖にかこつけて自説を張る過程を、“加上”という立論心理の法則的把握で論証し、さらに言語の種々相を分析、思想の特色を規定する民族性、“くせ”に着目し、印度の神秘的、中国の修辭的、日本の閉鎖的傾向を指摘して、各文化類型を相対的に比較観察する視座を提唱、文化人類学的発想を先取した「出定後語」を著し、

徳川吉宗隠居1745＝30歳： 刊行。

菅原伝授十・1746＝31歳： *「翁の文」刊行後、没した。